

教科 [技術] 科

学習状況の実態・調査結果等を踏まえた内容別・観点別分析表

1年	2年	3年
<ul style="list-style-type: none"> ・教科への関心・学習意欲は高く、授業に積極的に取り組んでいる。 ・実習の作業に対して関心や意欲が高く、安全に配慮する意識も高い。 ・作用について速さを重視して作品が粗雑になる生徒がいる。 ・作品の完成予想図を考えながら作業に取り組めない生徒がいる。 ・基本的な知識を実生活で生かせるようにすることが必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教科への関心・学習意欲は高く、授業に積極的に取り組んでいる。 ・実習の作業に対して関心や意欲が高く、安全に配慮する意識も高い。 ・授業での発言が少なくなっている。 ・授業を通して身に付けた知識や技術を、実生活で役立てることが十分にできていない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教科への関心・学習意欲は高く、授業に積極的に取り組んでいる。 ・実習の作業に対して関心や意欲が高く、安全に配慮する意識も高い。 ・授業での発言が少なくなっている。 ・作業課題に対して意欲的に制作している。また、提出物などもほぼ提出されている。



指導方法の課題分析と具体的な授業改善及び補充指導の計画

	指導方法の課題分析	具体的な授業改善策
1年	<ul style="list-style-type: none"> ・「A 材料の加工と技術」の領域では、構想図の学習を苦手とする生徒が見られる。完成図を思い描けずに学習が進めない状態となるので、模型などで視覚情報を補う指導が必要である。 ・学んだ基礎的な知識や技術を実習に活用し、作業を丁寧に行うよう指導していく必要がある。 ・小学校の図工授業との違いについて気付かせ、目的に適した工具の選択や使用について学習させる必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・実習での作業目標・内容を伝え、作業がうまく進められない生徒には個別に指導を行う。 ・学習形態を工夫して、協力し教え合う態度を育てる。 ・作業の進捗に違いが出ないように製作進捗を調整する。丁寧な作業の重要性を伝える機会を設ける。 ・仕事の楽しさや完成の喜びが味わえるよう製作段階でつまずく生徒に対して、ワークシートの活用や補習による個別指導を指導計画に入れる。 ・ICT機器を活用し、視覚的な理解を深める。 ・授業後の振り返りのレポートの提出を習慣付ける。 ・生徒全員が達成感を得られるような作品になるよう、仕上げまでアドバイスをする。 ・提出物チェックを行い、ものづくりの実技テストも実施する。
2年	<ul style="list-style-type: none"> ・「D 情報の技術（生活や社会を支える情報の技術）」の領域では、授業内容を理解していても応用して実習課題を解決するための創造力が不足しているため情報発信まで学習を進められるように、創造力の基礎となる基礎学習の充実が必要であると考えます。 ・技術科の授業だけでなく、学習内容に関連する他教科の学習を応用する指導も必要である。 ・授業への関心・意欲は高いので、さらに自分の意見を他の生徒の前で発表することができるように気持ちの指導や環境等の整備が必要である。 ・小学校での学習からPCの基本的な操作方法を習得している生徒と未習得の生徒が生まれている。その差を埋める指導が必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・実習では、全員が全ての作業工程に携われるようにする。 ・実習の授業とともに、その内容を振り返る授業も組み合わせで行う。 ・基礎基本の定着を図るために、個別対応を心掛ける。 ・積極的に発言する、自分の考えを表現・発表する姿勢・環境を作る。 ・仕事の楽しさや完成の喜びが味わえるよう製作段階でつまずく生徒に対して、ワークシートの活用や補習による個別指導を指導計画に入れる。 ・授業後の振り返りのレポートの提出を習慣付ける。毎時、提出物のチェックを行う。 ・タブレット端末などを活用し、興味、関心が高まるような動機付けを行う。 ・PC・エネルギー変換等の実技テストを実施する。
3年	<ul style="list-style-type: none"> ・「B 生物育成の技術 作物の栽培(生活や社会を支える生物育成の技術) (生物育成の技術による問題解決) (社会の発展と生物育成の技術)」の領域では、授業内容を理解していても制作作業に生かされていない状態が見られるので創造性をもたせる指導が必要であると考えます。 ・「D 情報の技術（計測、制御に関するプログラミングによる問題の解決）」の領域では、実習内容を実生活に生かせるようにすることが必要であると考えます。 ・「D 情報の技術（ネットワークを利用した双方向のあるコンテンツに関するプログラミングによる問題の解決）」の領域では、PCの基本的な操作方法是身に付いているが、自分で考えて応用する操作には習熟の差が見られる。個人差を埋める指導が必要であると考えます。 	<ul style="list-style-type: none"> ・実生活に関わりのある教材を提示し、家庭での実践意欲をもたせる。 ・学習に集中できるような教材の工夫をする。 ・仕事の楽しさや完成の喜びが味わえるよう製作段階でつまずく生徒に対して、ワークシートの活用や補習による個別指導を指導計画に入れる。 ・授業後の振り返りのレポートの提出を習慣付ける。毎時、提出物のチェックを行う ・生徒全員が達成感を得られるような作品になるよう、仕上げまでアドバイスをする。 ・PC等の実技テストを実施する。